

## 関節鏡手術とは？ ～小さな傷で行う最先端治療～

関節鏡手術とは、1cm程度の小さな傷からカメラ（関節鏡）や専用器具を挿入し、関節の中を見ながら行う手術です。肩関節では、腱板断裂、反復性脱臼、石灰沈着性腱板炎など、さまざまな疾患に対して広く行われています。近年では肩の手術の多くが関節鏡を用いて行われるようになり、体への負担が少ない治療法として発展しています。

関節鏡手術は小さな傷で治療ができるため、傷あとが目立ちにくいというメリットがありますが、それ以上に、関節の内部を拡大して詳細に観察できるため、細かな損傷まで確認しながら正確な治療を行うことができるという特長があります。たとえば腱板断裂では、切れた腱をスーチャーアンカーという器具で骨に固定し、元の位置へ修復します。反復性脱臼では、はがれた関節唇を修復し、肩関節の安定性を回復させます。関節鏡を用いることで、周囲の筋肉へのダメージを抑えながら治療を行うことが可能です。



(腱板断裂)



(スーチャーアンカーを使用した修復)

一方で、関節鏡手術は「小さな手術」という意味ではありません。術後の回復には、適切な麻酔管理と痛みのコントロール、そして段階的なリハビリテーションが非常に重要です。当センターでは、麻酔科医師と連携し、術後の痛みをできるだけ軽減しながら、安全に早期リハビリを進められる体制づくりを行っています。医師・麻酔科医師・作業療法士が協力し、それぞれの回復段階に合わせた治療を提供しています。

肩の痛みや動かしにくさが続く場合でも、関節鏡手術によって改善が期待できることがあります。患者さん一人ひとりの状態に応じて、保存治療と手術治療を適切に選択することが大切です。気になる症状がある場合は、お気軽にご相談ください。



# 安心して受けるための麻酔と痛みの管理の話

「手術って痛そう」→はい、痛いですが。切ったり刺したり削ったりします。

「手術って怖そう」→はい、怖いですが。よっぽどの人でないといけない怖いですが。

「手術って危険？」→手術中に体が動いたりすると危険かもしれません。

また、手術中に呼吸や血圧、脈などが不安定になると命にかかわる可能性があるかも。



以上のような事柄に対応するのが麻酔科の仕事です。

肩の手術は基本的に全身麻酔下で行います。全身麻酔というのは、薬を用いて一時的に脳の活動を抑え、意識をなくし、痛みを感じなくさせる麻酔方法です。

意識をなくす鎮静薬、痛みをとる鎮痛薬、予期せぬ体の動きを抑える筋弛緩薬などを使用します。筋弛緩薬を使用すると自分では呼吸できない状態になるため、呼吸の管を入れて人工呼吸器につなぐことになります。呼吸の管を入れるときは鎮静薬・鎮痛薬・筋弛緩薬が十分に効いた状態なので意識はまったくない状態です。



ただし、呼吸の管を抜くには目が覚めて自分で十分呼吸ができる状態でないと危険なため、その瞬間だけ苦痛を感じる可能性があります。

呼吸の管理は麻酔薬の使用とならび麻酔科の重要な役割です。また、麻酔中は血圧や脈が不安定になることも多いため、輸液管理や薬剤によってコントロールします。こういった循環の管理も麻酔科の重要な役割です。

肩の手術は様々な手術のなかでも痛みの強いものといわれています。術後も何もしなければ、ものすごく痛い可能性があります。そのため、当院では全身麻酔に加えて局所麻酔薬を使用した神経ブロックを行うことが多いです。首の横からカテーテル（細い管）を留置することで術後も持続で神経ブロックを継続できます。持続での投与に加え、ご自身で追加投与を行うことができるボタンがありますので、鎮痛が不十分なときに使用できます。

局所麻酔薬で神経を麻痺させる方法なので、肩から腕にかけてしびれや感覚の低下を感じることもあります。また、首にはいろいろな神経がありますので、そちらにも効いてしまうとまぶたの動きが悪くなったり、声のかすれ、飲み込みづらさ、息苦しさなどが起こることもあります。

そういった副作用にたいしては痛みの程度とあわせて持続流量の増減などで対応します。術後はこの神経ブロックに加えて点滴や飲み薬などの痛み止めの薬も適宜使用します。

術前の内服薬や血液検査の値により出血のリスクが高い場合などは神経ブロックが行えない場合もありますが、その場合は点滴からの持続の鎮痛薬を使用し、追加投与のボタンもついています。吐き気など一般的な術後の副作用についても薬の使用ができますので、気になることがある場合は早めにお伝えください。



当院では術後疼痛管理チームが活動しており、基本的に手術翌日（週末などで行えないこともあります）中心にベッドサイドにお邪魔しますので、痛みや副作用について遠慮なくお伝えください。

なにもしなければ痛くて、怖くて、危険かもしれない？ですが、安全に快適に手術が受けられるように麻酔科がお手伝いさせていただきます。

麻酔科部長  
西川 昌志

お困りなことがございましたら肩関節センターまでお気軽にご相談ください。

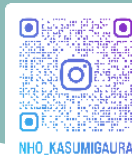
独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター  
整形外科肩関節センター

〒300-8585 茨城県土浦市下高津2-7-14

TEL029-822-5050(代表) FAX029-824-0494(代表)

紹介状のある方：029-826-7556(地域連携室 平日8:30-17:15)

紹介状のない方：029-826-6471(診療予約センター 平日12:30-16:00)



NHO\_KASUMIGAURA

